



赤保発第 79 号・平成 29 年 8 月 22 日（火）・記:次郎丸

暦の上では立秋を迎えました。朝夕に涼しさを感じる事もありますが、日中はまだまだ暑く、秋を感じるのは

もう少し先の様です。そんな暑さの中でも子どもたちは元気いっぱい毎日過ごしています。

水遊びが始まると、ペットボトルや水風船にたっぷりとお水を入れ、友だち同士で掛け合ったり水風船の柔らかい感触を楽しんだり…。ホースから出てくる冷たい井戸水が体に掛かると「つめた〜いっ！」と驚きながらも「もっとかけて〜。」と自らホースの前に出て全身に水を浴びる子もおり、この時期だからこそ水を使って思い切り楽しむ姿が見られました。



「つめた〜いっ。  
でも、きもちいいね。」



「みずふうせん、  
おもしろいなあ」



あわあそびも  
やりました。



## 第2回 異年齢活動

8月7日（月）から第2回目の異年齢活動が始まり、“お店屋さんごっこ”をテーマに各グループ、何を作るか子どもたちと話し合いを行い、23日（水）の開店に向けて準備を進めてきました。3、4、5歳児の縦の関係をもっと深めて欲しいと思い、前回と同じメンバーで3グループに分かれ約2週間を過ごしてきました。“おすし屋さん”や“アイスクリーム屋さん”“ドーナツ屋さん”など子どもたちの大好きな食べ物のお店から“ヨーヨー釣り”“おぼけやしき”と祭りをイメージしたものなどたくさんの内容が決まり、楽しそうに準備を進める子どもたちでした。

中にはつき組の子が“絵本の読み聞かせ屋さん”を行うグループもあり、担当になった子は、保育園や家で絵本を読んで、読み聞かせの練習を行い、「みんなのためによんであげたい。」という気持ちが強く伝わってきました。途中、お盆の期間もあり合同で過ごす事もありましたが、その中で自分のグループの品物だけでなく、「アイスクリームつくってみたい。」「カップケーキつくるの、てつだってきていい？」と他のグループの品物もみんなと一緒に作る姿もあり、楽しく過ごすことができました。また、つき組として年下の子の身の回りを手伝ったり、雑巾がけを率先して行ったりと短い期間の中で頑張る姿も見られました。

19日（土）で異年齢活動は終了しましたが、同年齢での生活に戻っても縦の繋がりが切れない様に、ゆき組の子を手伝ったり、ほし組の子に教えたりと最年長児としての自覚が持てる様に関わりを作っていきたいと思います。

## キャンプに向けて…。

9月に行われるキャンプに向けて、自分たちがキャンプで使用するシュラフ（寝袋）を干したり、テントを立てる練習を行っています。また、給食の先生と野菜を切る練習も行っており、キャンプに向けた準備を頑張っており取り組んでいます。

<シュラフ>袋に入っているシュラフを出して広げた後、再度丸めて袋に入れる練習を行いました。



まずは、袋からシュラフを出します。



「ちょっと中に入れてみよう！」



もういちど丸めて袋に入れる…。上手に入るかな。

<野菜の切込み>給食の先生と一緒にニンジンやたまねぎを切りました。



自分で切れる様に、給食の先生が教えてくれました。



左手はしっかりと“猫の手”で野菜が動かない様に、押さえます。



きゅうりの輪切りも上手にできました。

<テント立て>友だちと力を合わせてテントを立てていきました。



テントを広げます。どうやって、立てるのかな。



パイプを繋げてい テントが立って一安心。ます。 でも、まだまだ先があります。



キャンプは、一人ではできません。周りにいる友だちと力を合わせて進めていく必要がありますが、「わたしがやる！」「ぼくもしたかったのに～。」とどうしても自分がやりたいという気持ちが強く出る場面が見られます。周りの友だちと力をあわせるという気持ちが強くなるようにキャンプに向けて取り組んでいきます。

キャンプに関する事は手紙を発行いたしますので、ご確認ください。